

貴重書紹介

『十帖源氏』 佐賀大学小城鍋島文庫所蔵 甲本(左)・乙本(右)



解説

野々口立圃作。10巻10冊。刊行は万治4年(1661)か。源氏物語梗概本の代表作。甲本は小城藩第2代藩主鍋島直能の旧蔵書であり、おびただしい書入れがある。第10冊末跋文は、甲本が著者立圃の自筆、乙本はそれを版刻したもの。

本文は両者一見したところ、同一の版本で刷られたかに見える。が、仔細に観察すると、別の異なる版本で印刷されたものであることがわかる(「被せ彫り」という技法による)。文学史上・出版史上の注目すべき発見であるが、これひとえに、重複本が棄てられなかったことによって判明したものである。重複を理由に蔵書を廃棄しなかった近世大名家の見識の高さをうかがわせる恰好の事例といえよう。文化はこうして蓄積され継承されてゆく。

(文化教育学部教授 白石良夫)